



報道関係各位

2009(平成21)年 10月 21日(水曜)

おきのいんたきぎのう  
**後鳥羽院770年祭記念 隠岐院薪能**  
 隠岐神社に約700人の観客を迎え、盛大に開催

海士町では去る10月17日、著名な役者を招き薪能を隠岐神社に奉納する行事『隠岐院薪能』を開催しました。海士町町制施行40周年記念事業の一つであり、後鳥羽上皇没後770年、また隠岐神社の創建70周年を記念する催しでもありました本イベントは、700人を越える観客にお越しいただき、盛況のうちに幕を閉じました。

海士町出身の徳山詳直氏(京都造形芸術大理事長、東北芸術工科大理事長)には来賓代表として、「本行事の実現は言葉に言い表せないほどの感動。この島で生まれ、この島で育ったことを誇りに思う」との挨拶をいただきました。

緑に包まれ、かがり火に浮かび上がる舞台。観世鍔之丞(てつのじょう)氏と野村万蔵氏という日本を代表する両名により奉納された能と狂言に、大勢の観客が魅了されました。

海士町は後鳥羽上皇が生涯を終えられた地として知られ、歴史的・文化的資産を多く有しています。島外からも多くの方々にお越しいただいた今回の催しに続き、今後も、町の‘宝’ともいべき様々な観光資源に効果的にスポットを当て、海士町の魅力発信に取り組んで参ります。



当日午後、一時は激しい雷雨に襲われたものの見事に天候回復し、無事屋外で催行。隠岐神社拝殿前は大勢の観客で埋め尽くされました



宵闇に木立がざわめく中、演じられた狂言の演目は「隠狸(かくしだぬき)」(シテ:野村万蔵)。狸取りの名人であることを隠した太郎冠者が、主人に酒を飲まされて狸を腰に隠したまま舞をまわされるという、面白み溢れる内容でした



能の演目は、「小鍛冶(こかじ)」(シテ:観世鍔之丞)。名高い刀鍛冶である三条小鍛冶宗近が、稻荷明神の力添えで、名剣子狐丸を鍛え上げます。稻荷明神が白狐の姿で現れ、相槌として宗近を助けるシーンのダイナミックさは息を呑むばかりでした

《本件についてのお問い合わせ窓口》

後鳥羽院顕彰事業 実行委員会事務局 (担当:澤田) 【電話】 08514-2-0111 【Fax】08514-2-0357